

日本天文学会 早川幸男基金による渡航報告書

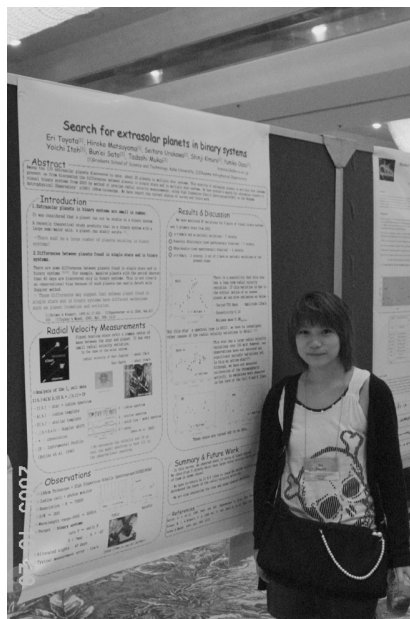
Protostars and Planets V

渡航先—アメリカ合州国

期 間—2005年10月23-30日

今回、私は、アメリカ合州国ハワイ島コナで開催された「Protostars and Planets V」に参加し、「Search for extrasolar planets in binary systems」というタイトルでポスター発表を行ってきました。31カ国からおおよそ800名、日本人だけでも70名が参加するというたいへん大きな研究会でした。私は、海外で開催される国際研究会への参加は今回が初めてだったので、どのような雰囲気で行われるのか、最初はとても緊張しました。

本会議は、分子雲とコア、星形成と原始星、連星系と多重星系、ジェットとアウトフローなど、13分野からなるトークとこれらに関連したポスターが多数掲示されていました。私は、「Search for extrasolar planets in binary systems」というタイトルでポスター発表を行いました。私たちのグループでは、2003年度から国立天文台岡山観測所で、実視連星系内の系外惑星探査を行っています。本発表では、約2年分のデータを用いて、現段階でのサーベイの結果を報告しました。これまでにドップラーシフト法で見つかった系外惑星約180個のうち、連星系内での惑星は20個ほどしかありません。しかしながら、単独星おける惑星との明らかな違いが指摘されています。例えば、周期40日以下で2木星質量以上の惑星は、連星系内では検出されていません。ドップラーシフト法は、主星から近くて重い惑星ほど検出が容易なので、明らかに観測バイアスではありません。この点からも、連星系・多重星系での惑星は最もホットな話題の一つになっています。この会議で、系外惑星が検出された単独星の伴星探査を行っているドイツの研究グループと知り合うこと



ポスター会場にて

ができました。私は彼らの論文を何本も読んでおりましたし、同じ連星系に存在する惑星に興味をもつ学生と知り合うことができたいへん嬉しく思いました。将来的には、彼らとの共同研究の可能性について探っていきたいと思っています。

今回の渡航での反省点の一つは、語学力でした。私の英会話のつたなさのため、もっとたくさんの議論ができなかったことがとても残念でした。今後は、英会話、ヒアリング力の向上にさらに励みたいと思います。最後になりましたが、今回私にこのような渡航の機会を与えてくださった日本天文学会と早川幸男基金関係者の方々に深く感謝いたします。今後は、この研究会で得られた経験を活かし、広い視野をもって研究を進めていきたいと思っています。本当に有難うございました。

豊田英里（神戸大学自然科学研究科）